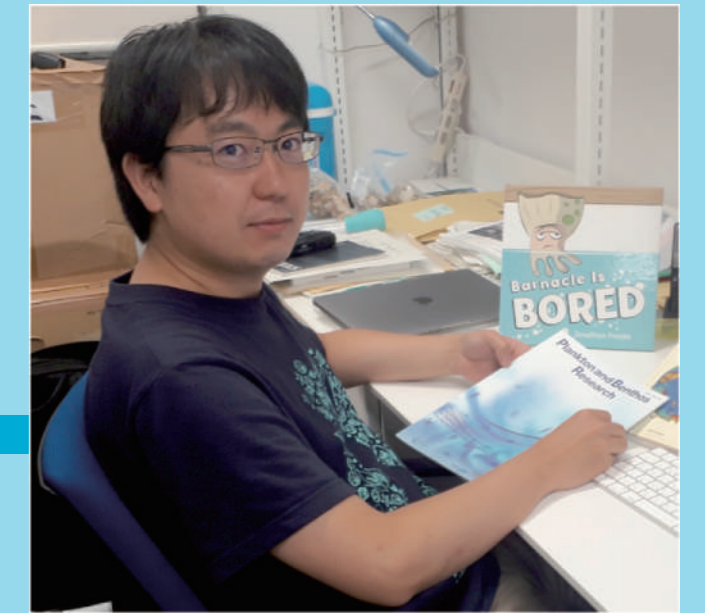


外来性フジツボ類の分布拡大メカニズムに迫る

自然・環境マネジメント研究部 生態研究グループ

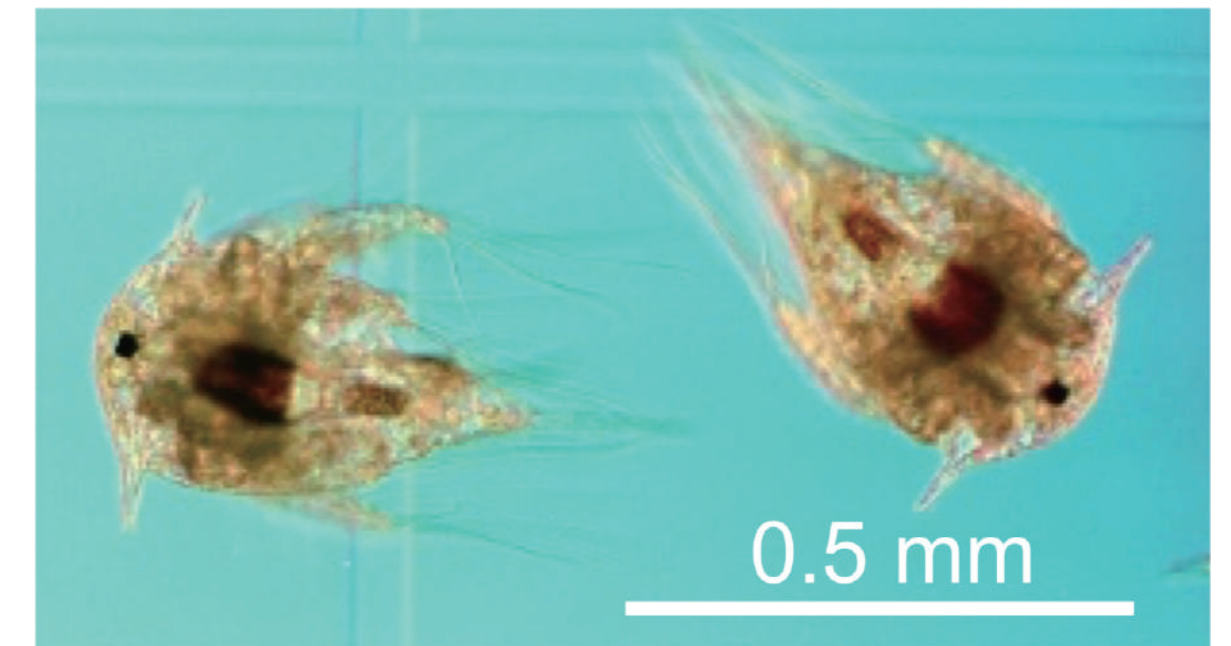
頼末 武史



現在までに、世界各地の海からは 1,700 種以上、日本国内では 50 種以上の海産外来種が発見されており、その数は増え続けています。海産外来生物の代表格として、フジツボの仲間が良く知られています。フジツボは貝のような見た目をしていますが、エビやカニと同じ甲殻類です。親から放出された 1 mm にも満たない小さなプランクトン幼生が海の中を漂ったり泳いだあと、岩などに固着して成体になります。

外来のフジツボ類の多くは、プランクトン幼生がタンカーなどのバラスト水（重しとして積んでいる海水）に混入したり、船の底に固着して世界各地に広がっていると考えられています。外来種に対してどのような対応をしていくかを検討するためには、侵入先でどのように分布を拡大させているのか、という科学的な知見を蓄積することが重要です。

これまでの研究では、キタアメリカフジツボという外来種を対象に、在来の捕食者やカサガイの仲間が分布拡大を抑える役割を持っていることがわかってきました。この種では、捕食者やカサガイの仲間が少ない港湾などが分布拡大に重要な場所となっているのかもしれませんが。今後は様々な種を対象に、世界各地の研究者と協力し、飼育実験や遺伝子解析を通して海産外来種の分布拡大メカニズムを解明していきます。



フジツボのノープリウス幼生
船のバラスト水に混入して移動することがある



キタアメリカフジツボ（下、外来種）
東北～北海道沿岸で見られる
シロガイ（上、在来種）
カサガイの仲間